

巨大氷柱見学 10 周年 特集記事

平成 23 年〔2011 年〕2 月、二ツ小屋隧道に出現する巨大氷柱を初めて見学してから今年（令和 3 年〔2021 年〕）で丁度 10 周年の節目の年になる（東日本大震災からも 10 年目）。これを記念し今回の特集記事を掲載する。

【その 1】

1. 10 年間の記録(2011 年 2 月～2021 年 2 月)、巨大氷柱ハイライト(写真)

平成 23 年〔2011 年〕2 月から令和 3 年〔2021 年〕2 月までの 10 年間の記録をハイライトで紹介する（平成 25 年〔2013 年〕及び平成 27 年〔2015 年〕は欠落、平成 26 年及び平成 28 年は山口屋散人様提供）。また、おばら様から平成 21 年〔2009 年〕分、山口屋散人様から平成 17 年〔2005 年〕分の提供を受けているので、特別編として併せて報告する。

【その 2】

2. 平成 23 年 2 月の奇跡

最初に巨大氷柱を見た平成 23 年〔2011 年〕2 月 6 日は、忘れもしない東日本大震災の 1 ヶ月前のことであったが、二ツ小屋隧道米沢側坑口付近に超弩級の巨大氷柱が出現した。現在確認できるところでは、後にも先にも当該箇所にはそのような巨大氷柱は出現していないと思われる。「万世大路をこよなく愛する」山友の皆さんから当時提供を受けたこの米沢側の貴重な写真を、筆者分を含め改めて本節で紹介する。

3. 冬の万世大路

多くの皆様から提供を受けて、現在筆者の手元にある旧国道 13 号（旧 5 号・旧 39 号）の過去の冬期状況写真を氷柱に限らず紹介する。また、筆者自身ほとんど行くことのできない栗子隧道・山形県側の冬期状況（平成 21 年 3 月 15 日）について、これもまたおばらさんから貴重な写真の提供を受けているので併せ紹介するものである。

（1）明治時代(国道 39 号時代)

（2）大滝集落関連

大滝集落在りし昭和の日々 〈大滝集落〉〈集落関連〉

今冬の旧大滝集落 令和 3 年 2 月 12 日

（3）内務省(建設省)関連

昭和の大改修関連（戦前、内務省）

栗子国道改築関連（戦後、建設省）

（4）栗子隧道（米沢側） 平成 21 年 3 月 15 日 おばら様提供

【その1】

1. 10年間の記録(2011年2月～2021年2月)、巨大氷柱ハイライト(写真)

二ツ小屋隧道の巨大氷柱の出現箇所は毎年ほぼ同様で、大小は別として毎年ほぼ同じパターンで出現する。即ち①**福島側坑口付近氷柱群**：福島側坑口から30mほど進んだ地点付近、第1号内巻区間(約30m)の中間付近左側と、同区間の米沢側端部右側(坑口から約50m地点)の2箇所に出現、②**巨大氷柱群**：第2号内巻区間(約70m)の福島寄り、福島側坑口から約100m地点付近に出現する巨大氷柱群、③**米沢側坑口付近氷柱群**：第6号内巻区間(約80m)の米沢側坑口付近左側(米沢側坑口から約20m地点付近の覆工崩落箇所)に出現する巨大氷柱群の3ブロックである。他に、第2号内巻福島側端部(福島側坑口から約70m地点)及び米沢側の第5号内巻区間の米沢側端部付近(米沢側坑口から約100m地点)等に単独の氷柱が出現するが小規模なので②及び③に含ませる(距離は歩測・簡易距離計等によるもので正確ではなく目安程度と考えられたい)。

なお、氷柱とは直接関係ないが福島側及び米沢側坑門状況については毎年分掲載した。

※ 内巻(区間)

トンネル(隧道)は天井や壁がコンクリートになっているがこれを覆工(巻立) かっこう まきたて コンクリート或いは単に覆工という。天井部をアーチ(部)、脇の壁は側壁(部)ともいう。場所によりこの覆工が厚くなっているところがあり、現地を見れば段差があるので内巻区間を容易に確認することができる。これは、従来の覆工コンクリート(昭和8～9年度施工)が劣化したため、後にその内側にコンクリートを厚さ30cmほど足して補強したものである(昭和27～28年度施工)。これを内巻と云う。内巻区間は、二ツ小屋隧道では目視によると都合6箇所あり、福島側から第1号(福島側坑口から約20m地点から)～第6号(米沢側坑口まで)と仮に番号を付している。

(参考写真No.1～No.2 参照)



参考写真No.1 二ツ小屋隧道福島側・内巻箇所。
第1号内巻(坑口から約20m地点、約30m区間)。
米沢側を望む。H310114



参考写真No.2 二ツ小屋隧道米沢側坑口・内巻端部(崩落状況)。
第6号内巻(坑口から約80m区間)。 R020119

【平成 23 年〔2011 年〕2 月 6 日】

(1) 両坑口(福島側及び米沢側)



(写真 23・1 - 1A) 福島側坑門



(写真 23・1 - 1B) 福島側坑口から坑外を望む



(写真 23・1 - 2 A) 米沢側坑門



(写真 23・1 - 2 B) 米沢側坑口から坑外を望む。

(2) 福島側坑口付近氷柱群



(写真 23・2 - 1)

第 1 号内巻区間から米沢側を望む(HDR)。

dark-RX 様提供



(写真 23・2 - 2)

第 1 号内巻区間から米沢側を望む。

手前左側、最初の氷柱群。右側奥、2 番目の氷柱群。

sunny panda 様提供



(写真 23・2 - 3)
第 1 号内巻区間

sunny panda 様提供



(写真 23・2 - 4)
第 1 号内巻区間(米沢側端部付近)から福島側を望む。

sunny panda 様提供



(写真 23・2 - 5)
氷柱落下、直径 50cm 以上。



(写真 23・2 - 6)
第 1 号内巻区間米沢側端部(右側)。

(3) 巨大氷柱群



(写真 23・3 - 1A)
第 2 号内巻区間、巨大氷柱群、福島側から望む。



(写真 23・3 - 1B)
第 2 号内巻区間、巨大氷柱群、福島側から望む。

sunny panda 様提供



(写真 23・3 - 2)

南側から望む。 sunny panda 様提供



(写真 23・3 - 3)

記念写真「万世大路をこよなく愛する人々」 dark-RX 様提供



(写真 23・3 - 4A)

第2号内巻区間、巨大氷柱。米沢側から望む。



(写真 23・3 - 4B)

米沢側さらに奥から望む。

(4) 米沢側坑口付近氷柱群



(写真 23・4 - 1)

米沢側坑口から望む。



(写真 23・4 - 2)

坑内から米沢側坑口を望む。



(写真 23・4-3) 【参考】

当該箇所にて巨大氷柱が出現したのは平成 23 年 2 月のみ。
例年氷柱の発生はなく、
申し訳程度のつららが出る年もある(写真左奥)。

〔H290205〕

※ 平成 23 年 2 月の米沢側坑口付近巨大氷柱群については、
次節で改めて特集している。

【平成 24 年【2012 年】2 月 26 日】

(1) 両坑口(福島側及び米沢側)



(写真 24・1-1A)

福島側坑門



(写真 24・1-1B)

福島側坑口から坑外を望む。



(写真 24・1-2A)

米沢側坑門



(写真 24・1-2B)

米沢側坑口から坑外を望む

(2) 福島側坑口付近氷柱群



(写真 24・2-1)

第1号内巻区間から米沢側を望む。
最初の氷柱群は落下したのか、中央部のみ。



(写真 24・2-2)

氷柱落下残骸か。



(写真 24・2-3)

第1号内巻区間米沢側端部(右・氷柱箇所)を
福島側から望む。



(写真 24・2-4)

第1号内巻区間米沢側端部(左・氷柱箇所)を
米沢側から望む。

(3) 巨大氷柱群



(写真 24・3-1)

第2号内巻区間、巨大氷柱群、福島側から望む。



(写真 24・3-2)

巨大氷柱群、福島側から望む。



(写真 24・3 - 3)

第 2 号内巻区間、巨大氷柱群、米沢側から望む。



(写真 24・3 - 4)

さらに奥の米沢側から望む。



(写真 24・3 - 5)

奥の氷柱を福島側から望む。



(写真 24・3 - 6)

奇妙な氷筍(まるで逆さつらら)。第 4 号内巻米沢側端部
(アーチ部覆工コンクリート崩落箇所)、米沢側から望む。

(4) 米沢側坑口付近氷柱群



(写真 24・4 - 1)

第 6 号内巻(米沢側坑口から約 80m 区間) 福島側端部付近
から第 5 号内巻(米沢側端部)を望む。中央につららが見える
(路上まで届く冬もある)。



(写真 24・4 - 2)

第 6 号内巻区間(米沢側坑口から約 80m 区間) 中間付近
から米沢側坑口を望む。



(写真 24・4-3)
覆工コンクリート崩落箇所
の福島側。



(写真 24・4-4)
覆工コンクリート崩落箇所。



(写真 24・4-5)
米沢側坑口付近から福島側を望む。
右上覆工コンクリート崩落箇所。

【平成 26 年〔2014〕1 月 13 日】

(山口屋散人様提供)

(1) アプローチ



(写真 26 ・1 - 1)

連絡道路(新栗子トンネル換気塔管理通路)入口。
奥の道路は、現国道 13 号(東栗子トンネル手前)。

(2) 福島側坑口水柱群



(写真 26 ・2 - 1)

第 1 号内巻区間から米沢側を望む。
手前左側・中央、最初の氷柱群。右側奥、2 番目の氷柱群。
奥に第 2 号内巻箇所(巨大氷柱群)福島側端部が見える。

(3) 巨大氷柱群



(写真 26 ・3 - 1)

第 2 号内巻区間、巨大氷柱群、福島側から望む。



(写真 26 ・3 - 2)

第 2 号内巻区間、巨大氷柱群、福島側から望む。



(写真 26・3 - 3)

巨大氷柱群、米沢側から望む。



(写真 26・3 - 4)

巨大氷柱群、米沢側さらに奥から望む。

(1)両坑口(福島側及び米沢側)



(写真 28・1-1A) 福島側坑門



(写真 28・1-1B) 米沢側坑門

(2)福島側坑口付近氷柱群



(写真 28・2-1)

第 1 号内巻区間から米沢側を望む。
手前左側・中央、最初の氷柱群。右側奥、2 番目の氷柱群。



(写真 28・2-2)

第 1 号内巻区間米沢側端部(右・氷柱箇所)付近から
第 2 号内巻(福島側端部)を望む。奥に巨大氷柱群が見える。

(3)巨大氷柱群



(写真 28・3-1)

第 2 号内巻区間、巨大氷柱群、福島側から望む。



(写真 28・3-2)

第 2 号内巻区間、巨大氷柱群、福島側から望む。



(写真 28・4 - 3)

巨大氷柱群、米沢側から望む。



(写真 28・4 - 4)

巨大氷柱群、米沢側さらに奥から望む。

(4) 米沢側坑口付近氷柱群



(写真 28・4 - 1)

第 5 号内巻・米沢側端部付近から米沢側坑口
(第 6 号内巻・福島側端部)を望む。中央に氷柱が見える。
雪の吹き込みが 100m 以上であることが分かる。



(写真 28・4 - 2)

米沢側坑口付近巨大氷柱群。
覆工コンクリート崩落箇所。



(写真 28・4 - 3)

米沢側坑口付近から福島側を望む。
右奥、覆工コンクリート崩落箇所。

【平成 29 年〔2017 年〕2 月 5 日〔2 月 12 日〕】

(1)両坑口(福島側及び米沢側)



(写真 29・1 - 1A) 福島側坑門



(写真 29・1 - 1B) 福島側坑口から坑外を望む。



(写真 29・1 - 2 A) 米沢側坑門



(写真 29・1 - 2 B) 米沢側坑口から坑外を望む。

(2)福島側坑口付近氷柱群



(写真 29・2 - 1)

第 1 号内巻区間から米沢側を望む。
手前左側・中央、最初の氷柱群。右側奥、2 番目の氷柱群。



(写真 29・2 - 2)

福島側部(左側)氷柱状況。 dark-RX 様提供



(写真 29・2 - 3)

第 1 号内巻区間米沢側端部(右・氷柱箇所)を福島側から望む。左側に巨大氷柱群が見える。



(写真 29・2 - 4)

第 1 号内巻区間米沢側端部付近から福島側坑口を望む。

dark-RX 様提供

(3) 巨大氷柱群



(写真 29・3 - 1)

第 2 号内巻区間を福島側から望む。
奥に巨大氷柱群が見える。



(写真 29・3 - 2)

巨大氷柱群、福島側から望む。

[H29.2.12]



(写真 29・3 - 3)

巨大氷柱群、南側氷柱。米沢側から望む。[H29.2.12]



(写真 29・3 - 4)

巨大氷柱群。北側氷柱、南側から望む。



(写真 29-3-5)

巨大氷柱群、福島側から望む。

dark-RX 様提供。



(写真 29-3-6)

巨大氷柱群、米沢側から望む。〈氷の神殿〉

矢内晴史様提供



(写真 29・3 - 6)

米沢側さらに奥から望む。

[H29.2.12]



(写真 29・3 - 7)

米沢側にて記念写真。

矢内晴史様提供

(4) 米沢側坑口付近氷柱群



(写真 29・4 - 1)

第 6 号内巻(米沢側坑口から約 80m 区間)福島側端部付近から第 5 号内巻(米沢側端部)を望む。中央に氷柱が見える。雪の吹き込みが 100m 以上であることが分かる。



(写真 29・4 - 2)

第 6 号内巻区間(米沢側坑口から約 80m 区間)中間付近から米沢側坑口を望む。奥が覆工コンクリート崩落箇所。



(写真 29・4 - 3)

覆工コンクリート崩落箇所(写真 29・4 - 4 参照)の福島側。



(写真 29・4 - 4)

米沢側坑口付近巨大氷柱群。覆工コンクリート崩落箇所。

[H29.2.12]



(写真 29・4 - 5)

覆工崩落箇所の巨大氷柱群。トンネル上の沢水(仮称白竜沢)が流入して氷柱を形成。 矢内晴史様提供



(写真 29・4 - 6)

米沢側坑口付近、地吹雪の吹き込み。[H29.2.12]

【平成 30 年〔2018 年〕1 月 14 日〔1 月 23 日〕】

(1) 両坑口(福島側及び米沢側)



(写真 30・1 - 1A)

福島側坑門

〔H30.1.23〕



(写真 30・1 - 1B)

福島側坑口から坑外を望む。

〔H30.1.23〕



(写真 30・1 - 2A)

米沢側坑門。



(写真 30・1 - 2B)

米沢側坑口から坑外を望む。

(2) 福島側坑口付近氷柱群



(写真 30・2 - 1)

第 1 号内巻区間から米沢側を望む。

手前左側・中央、最初の氷柱群。右側奥、2 番目の氷柱群。



(写真 30・2 - 2)

第 1 号内巻区間(米沢側端部付近)から福島側を望む。



(写真 30・2 - 3)

第 1 号内巻区間米沢側端部(右・氷柱箇所)を福島側から望む。
奥に第 2 号内巻米沢側端部(巨大氷柱群)が見える。



(写真 30・2 - 4)

第 1 号内巻区間米沢側端部(左・氷柱箇所)を
米沢側から望む。

(3) 巨大氷柱群



(写真 30 ・3 - 1)

第 2 号内巻区間を福島側から望む。奥に巨大氷柱群が見える。



(写真 30 ・3 - 2)

巨大氷柱群、福島側から望む。

[H30.123]



(写真 30 ・3 - 3)

巨大氷柱群、福島側から望む



(写真 30 ・3 - 4)

巨大氷柱群、米沢側から望む



(写真 30・3-5)

巨大氷柱群、米沢側から望む。

【H30.1.23】



(写真 30・3-6)

巨大氷柱群、米沢側さらに奥から望む。 【H30.1.23】

(4) 米沢側坑口付近氷柱群



(写真 30・4-1)

第 6 号内巻区間、中間点付近から福島側を望む。

第 5 号内巻米沢側の端部が僅かに見える(氷柱落下、つららあり)。



(写真 30・4-2)

第 6 号内巻区間(米沢側坑口から約 80m 区間)中間付近から米沢側坑口を望む。左側奥、覆工コンクリート崩落箇所。



(写真 30・4-3)

覆工コンクリート崩落箇所 (写真 30・4-4 参照)の左側福島側寄り。



(写真 30・4-4)

米沢側坑口巨大氷柱群(覆工崩落箇所)

【平成 31 年〔2019 年〕1 月 14 日〔令和元年〕】

(1) 両坑口(福島側及び米沢側)



(写真 31・1 - 1A)

福島側坑門



(写真 31・1 - 1B)

福島側坑口から坑外を望む。



(写真 31・1 - 2A)

米沢側坑門



(写真 31・1 - 2B)

米沢側坑口から坑外を望む。

(2) 福島側坑口付近氷柱群



(写真 31・2 - 1)

第 1 号内巻区間から米沢側を望む。

手前左側・中央、最初の氷柱群。右側奥、2 番目の氷柱群。

第 2 号内巻区間(巨大氷柱群)福島側端部が見える。



(写真 31・2 - 2)

第 1 号内巻区間左側の氷柱群を望む。



(写真 31・2-3)

第1号内巻区間米沢側端部(右・氷柱箇所)を福島側から望む。
奥に第2号内巻米沢側端部(巨大氷柱群)が見える。



(写真 31・2-4)

第1号内巻区間米沢側端部(左・氷柱箇所)を
米沢側から望む。

(3) 巨大氷柱群



(写真 31・3-1)

第2号内巻区間を福島側(端部付近)から望む。
奥に巨大氷柱群が見える。



(写真 31・3-2)

第2号内巻区間福島側端部付近氷柱を米沢側から望む。



(写真 31・3-3)

巨大氷柱群、福島側から望む。



(写真 31・3-4)

巨大氷柱群、福島側から望む。



(写真 31・3 - 5)

巨大氷柱群、米沢側から望む。



(写真 31・3 - 6)

巨大氷柱群、南側から望む。



(写真 31・3 - 7)

巨大氷柱群、米沢側さらに奥から望む。



(写真 31・3 - 8)

地元テレビ局 取材風景。

(4) 米沢側坑口付近氷柱群



(写真 31・4 - 1)

第 6 号内巻区間、中間点付近から福島側を望む。
第 5 号内巻米沢側の端部が僅かに見える(氷柱落下、つららあり)。
雪の吹込み 100m程度か。



(写真 31・4 - 2)

第 6 号内巻(米沢側坑口から約 80m 区間) 中間付近から
米沢側坑口を望む。
左側奥、覆工コンクリート崩落箇所。



(写真 31・4 - 3)

米沢側坑口巨大氷柱群(覆工崩落箇所)



(写真 31・4 - 4)

米沢側坑口付近から福島側を望む。

【令和2年〔2020年〕1月19日〔2月5日〕】

この年異常気象・暖冬、巨大氷柱出現せず！

(1)両坑口(福島側及び米沢側)



(写真 02・1 - 1A)

福島側坑門



(写真 02・1 - 1B)

福島側坑口から坑外を望む



(写真 02・1 - 2A)

米沢側坑門



(写真 02・1 - 2B)

米沢側坑口から坑外を望む。



(写真 02・1 - 3)

米沢側坑門。

坑門のつらは初見、珍しい現象。

おばら様提供

[R2.2.5]

(2) 福島側坑口付近氷柱群・例年出現箇所



(写真 02・2 - 1)

第1号内巻区間から米沢側を望む。左側から湧水あり。
第2号内巻区間福島側端部が見える(巨大氷柱群出現せず)。



(写真 02・2 - 2)

第1号内巻区間左側湧水箇所。氷柱群なし。



(写真 02・2 - 3)

第1号内巻区間米沢側端部(右・つらら箇所)を福島側から望む。
奥に第2号内巻米沢側端部が見えるが巨大氷柱群出現せず。



(写真 02・2 - 4)

第1号内巻区間米沢側端部崩壊箇所(つらら箇所)を
米沢側から望む。

(3) 巨大氷柱群・例年出現箇所



(写真 02-3-1)

第 2 号内巻区間・巨大氷柱群・例年出現箇所。
内巻福島側端部付近から望む。今年はつららのみ。



(写真 02-3-2)

第 2 号内巻区間・巨大氷柱群・例年出現箇所。
内巻区間内福島側端部付近から望む。今年はつららのみ。



(写真 02-3-3)

第 2 号内巻区間・巨大氷柱群・例年出現箇所。福島側から望む。
今年はつららのみ。写真上に鉄筋が見える。



(写真 02-3-4)

第 2 号内巻区間・巨大氷柱群例年・出現箇所。
つらはは前回[R2.1.19]より育つ。
左掲写真（写真 32-3-3）とほぼ同一箇所（写真上に鉄筋）。
おばら様提供 [R2.2.5]



(写真 02-3-5)

巨大氷柱群・例年出現箇所を米沢側から望む。



(写真 02-3-6)

巨大氷柱群・例年出現箇所を、さらに奥の米沢側から望む。

(4)米沢側坑口付近水柱群想定箇所



(写真 02・4 - 1)

第 5 号内巻・米沢側端部手前から福島側を望む。
少し奥中央に小さなつららが見える。
この辺り(米沢坑口から約 100m地点)まで例年雪が吹き込む。



(写真 02・4 - 2)

第 6 号内巻区間(米沢側坑口から約 80m 区間)中間付近から
米沢側坑口を望む。
左側奥が覆工コンクリート崩落箇所。



(写真 02・4 - 3)

米沢側坑口付近、巨大水柱群・例年出現箇所(覆工崩落箇所)



(写真 02・4 - 4)

米沢側坑口付近から福島側を望む。

【令和3年〔2021年〕1月17日〔2月12日〕】

(1)両坑口(福島側及び米沢側)



(写真 03・1 - 1A)

福島側坑門。



(写真 03・1 - 1B)

福島側坑口から坑外を望む。



(写真 03・1 - 2A)

米沢側坑門



(写真 03・1 - 2B)

米沢側坑口から坑外を望む。

(2)福島側坑口付近氷柱群



(写真 03・2 - 1A)

第1号内巻区間から米沢側を望む。
手前左側・中央、最初の氷柱群。右側奥、2番目の氷柱群。
第2号内巻区間(巨大氷柱群)福島側端部が見える。



(写真 03・2 - 2A)

第1号内巻区間左側の最初の氷柱群を望む。



(写真 03・2 - 1B)

第 1 号内巻区間から米沢側を望む。
手前左側、最初の氷柱群。右側奥、2 番目の氷柱群。
第 2 号内巻区間(巨大氷柱群)福島側端部が見える。

[R3.2.12]



(写真 03・2 - 2B)

第 1 号内巻区間左側の最初の氷柱群を望む。

[R3.2.12]



(写真 03・2 - 3A)

第 1 号内巻区間米沢側端部(右・氷柱箇所)を福島側から望む。
奥に第 2 号内巻米沢側端部(巨大氷柱群)が見える。



(写真 03・2 - 4A)

第 1 号内巻区間米沢側端部(左・氷柱箇所)を米沢側から望む



(写真 03・2 - 3B)

第 1 号内巻区間米沢側端部、右側 2 番目の氷柱群を福島側から望む。
奥に第 2 号内巻米沢側端部(巨大氷柱群)が見える。

[R3.2.12]



(写真 03・2 - 4B)

第 1 号内巻区間米沢側端部、左側 2 番目の氷柱群を
米沢側から望む。

[R3.2.12]

(3) 巨大氷柱群



(写真 03・3 - 1A)

第 2 号内巻区間を福島側端部手前から望む。
奥に巨大氷柱群が見える。



(写真 03・3 - 2A)

第 2 号内巻区間福島側端部付近氷柱を米沢側から望む。



(写真 03・3 - 1B)

第 2 号内巻区間を福島側(端部付近)から望む。
奥に巨大氷柱群が見える。 [R3.2.12]



(写真 03・3 - 2B)

第 2 号内巻区間福島側端部付近氷柱を米沢側から望む。
テレビ局取材風景 [R3.2.12]



(写真 03・3 - 3A)

巨大氷柱群、福島側から望む。



(写真 03・3 - 3B)

巨大氷柱群、福島側右から望む。
奥の氷柱も見える。



(写真 03・3 - 3C)

巨大氷柱群、福島側から望む。

岡部達也様提供 [R3.1.9]



(写真 03・3 - 3D)

巨大氷柱群、福島側から望む。

[R3.2.12]



(写真 03・3 - 4A)

巨大氷柱群、米沢側から望む。



(写真 03・3 - 4B)

巨大氷柱群、米沢側さらに奥から望む。



(写真 03・3 - 4C)

巨大氷柱群、米沢側さらに奥から望む。

sunny panda 様提供



(写真 03・3 - 4D)

巨大氷柱群、米沢側さらに奥から望む。

岡部達也様提供 [R3.1.9]



(写真 03・3 - 5A)

巨大氷柱群、米沢側から望む。

【R3.2.12】



(写真 03・3 - 5B)

巨大氷柱群、米沢側さらに奥から望む。

【R3.2.12】

(4) 米沢側坑口付近氷柱群



(写真 03・4 - 1)

米沢側坑口から約 100m地点付近。
第 5 号内巻・米沢側端部手前から福島側を望む。
中央につらら、氷柱は落下か、氷塊が散乱。
奥に第 4 号内巻区間の米沢側端部と崩壊箇所につららが見える。



(写真 03・4 - 2)

第 6 号内巻(米沢側坑口まで続く約 80m区間)
福島寄りから米沢側を望む。
左奥に坑口部巨大氷柱群が見える。



(写真 03・4 - 3)

第 6 号内巻中間部付近から福島側を望む。
奥に微かに第 5 号内巻の米沢側端部が見える。



(写真 03・4 - 4)

米沢側坑口左側の氷柱群(覆工コンクリート崩落箇所)。



(写真 03・4 - 5)

覆工コンクリート崩落箇所、巨大氷柱群を正面から望む。



(写真 03・4 - 6)

米沢側坑口付近から福島側を望む。
右上、覆工コンクリート崩落箇所。

(5)アプローチルート(現国道 13 号からニツ小屋隧道まで)

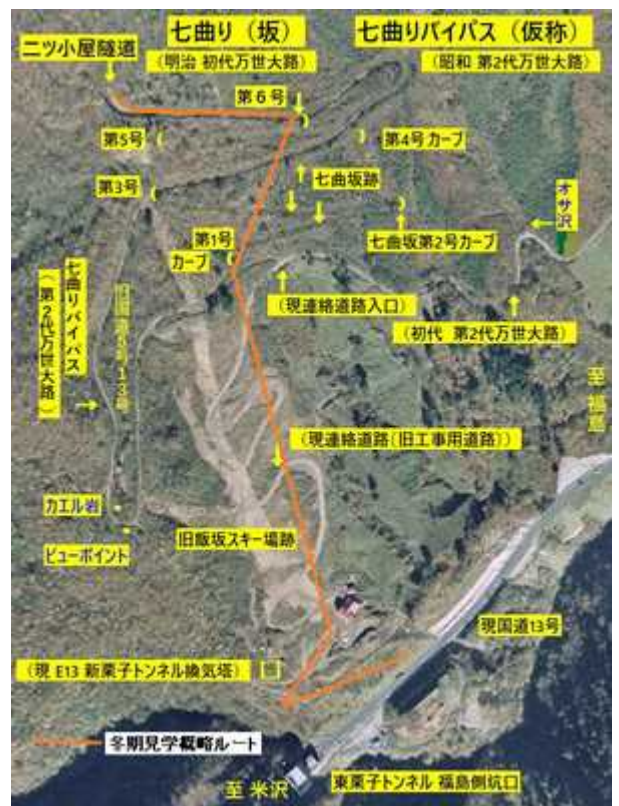
ニツ小屋隧道までは、冬期以外の時期では現国道 13 号 東栗子トンネル福島側坑口付近から連絡道路(大部分が東栗子トンネルの旧工事用道路、約 1.0 km)を上り旧国道 13 号に出て米沢側へ約 1.2 km 行けば到着する。

冬期間はブッシュの上の雪原、即ちかつて営業していた飯坂スキー場(連絡道路)にほぼ沿いながら直登して行くと、ニツ小屋隧道から数十メートル手前の旧国道 13 号に出ることができる。途中、連絡道路(旧工事用道路)や明治期初代万世大路七曲坂を突っ切って行く。

本節では各年を代表させ、このアプローチルートについて令和 3 年撮影の写真で紹介する。

(写真 03・5 - 1A) 冬期見学アプローチ概略ルート ⇒⇒

※ 飯坂スキー場 : 新国道開通後(S41.5.29)、3 年ほど営業していた(大滝会元従業員談)。写真下にロッジ跡と思われる建物がある(写真 33・5 - 1B 参照)。



(国土地理院提供[一部加筆] 昭和 51 年 11 月 2 日撮影)



(写真 03・5 - 2)

東栗子トンネル福島側坑口付近から旧飯坂スキー場跡を望む(右上)。左側建物は E13(東北横断中央自動車道)新栗子トンネル換気塔。

[R3.2.12]



(写真 03・5 - 1B)

飯坂スキー場ロッジ跡か。ロッジは、赤い色のトタン葺きの屋根とのことである(大滝会元従業員談)。



(写真 03・5 - 3)

最初は連絡道路(旧工用道路)を進む。
右上は旧飯坂スキー場ロッジ跡付近。 [R3.2.12]



(写真 03・5 - 4)

途中からはブッシュ上の雪原、道なき道を進む。



(写真 03・5 - 5)

途中、連絡道路をも横断する。 [R3. 2. 12]



(写真 03・5 - 6)

旧国道 13 号に到着。 [R3. 2. 12]
連絡道路 (旧工用道路) 起点、福島側を望む。



(写真 03・5 - 7)

旧国道から斜面を上る。
初代万世大路七曲坂第 1 号カーブ付近。



(写真 03・5 - 8)

旧七曲坂、3 段目道路に到着、
米沢側(3 号カーブ跡付近)を望む。



(写真 03・5 - 9)

旧国道(昭和の大改修バイパス中間部)から
二ツ小屋前旧国道を目指す。
途中、5 段目 6 段目の七曲坂を突っ切る。



(写真 03・5 - 10)

二ツ小屋隧道前旧国道 13 号に到着。
明治の七曲坂第 6 号カーブ付近。
第 7 段目道路(旧国道 13 号に改修)。
写真奥、米沢側方向、二ツ小屋隧道を望む。

(1)両坑口(福島側及び米沢側)



(写真 21・1-1A) 福島側坑門。



(写真 21・1-1B) 福島側坑口から坑外を望む。



(写真 21・1-2A) 米沢側坑門。



(写真 21・1-2B) 米沢側坑口から坑外を望む。

(2)福島側坑口氷柱群



(写真 21・2-1)

第 1 号内巻区間から米沢側を望む。
手前左側、最初の氷柱群。右側奥、2 番目の氷柱群。
第 2 号内巻区間(巨大氷柱群)福島側端部が見える。



(写真 21・2-2)

第 1 号内巻区間米沢側端部付近(左上氷柱)から米沢側を望む。
奥に第 2 号内巻米沢側端部(巨大氷柱群)が見える。

(3) 巨大氷柱群



(写真 21・3-1)

巨大氷柱群、福島側から望む。



(写真 21・3-2)

巨大氷柱群、福島側から望む。



(写真 21・3-3)

巨大氷柱群、米沢側から望む。



(写真 21・3-4)

巨大氷柱群北側を、米沢側から望む。

(4) 米沢側坑口氷柱群



(写真 21・4-1)

第5号内巻・米沢側端部付近(覆工崩壊箇所)から米沢側坑口を望む。ここでは氷筈が見られる。



(写真 21・4-2)

第6号内巻箇所中間部付近から米沢側坑口を望む。中央付近上、覆工コンクリートアーチ部崩壊箇所。



(写真 21・4-3)

覆エコンクリート崩落箇所、巨大氷柱群を正面から望む。



(写真 21・4-4)

米沢側坑口付近から福島側を望む。

(5)付録編 烏川橋



(写真 21・5-1)

烏川橋 烏川右岸橋台(福島側)手前から望む。



(写真 21・5-2)

烏川橋 烏川右岸(福島側)下流側から望む。



(参考写真)

烏川橋(コンクリート橋、L=23.3mW=6m S10.6～S11.9 C=15,034 円)。

烏川右岸橋台(福島側)手前から望む。 [H310404]

上掲(写真 21・5-1)と同一構図。

(注:編集の都合により一部加工修正画像あり。)

(1)両坑口(福島側及び米沢側)



(写真 17・1-1) 福島側坑門。



(写真 17・1-2) 米沢側坑門。

(2)福島側坑口付近氷柱群



(写真 17・2-1)

第 1 号内巻区間から米沢側を望む。
手前左側・中央、最初の氷柱群。右側奥、2 番目の氷柱群。
第 2 号内巻区間(巨大氷柱群)福島側端部が見える。



(写真 17・2-2)

第 1 号内巻区間左側の最初の氷柱群を望む。

(写真 17・2-3)

第 1 号内巻区間米沢側端部、2 番目の氷柱群を福島側から望む。
奥に第 2 号内巻米沢側端部(巨大氷柱群)が見える。



(3) 巨大氷柱群



(写真 17・3-1)

巨大氷柱群、福島側から望む。



(写真 17・3-2)

巨大氷柱群、福島側から望む。



(写真 17・3-3)

巨大氷柱群、米沢側から望む。

(4) 米沢側坑口付近氷柱群



(写真 17・4-1)

米沢側坑口付近から福島側を望む。

(注:編集の都合により一部加工修正画像あり。)